



平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 240

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		青少年表彰の表彰状及び表彰記念品の授与	1	件	857
		青少年育成委員会活動補助金の支出	17	件	15,300
		すぎなみ舞祭実行委員会、ボーイスカウト等事業共催分担金の支出	5	件	2,275
		未成年者の飲酒・喫煙防止啓発イベントの実施	1	回	663
	その他( 事業周知用チラシ作成費、郵送料等 )				263
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	<p>青少年表彰は、多くの推薦を得て個人や団体を表彰することができました。第6回目を迎えたすぎなみ舞祭は、会場を都立和田堀公園済美山運動広場に移し、参加者も1,200名を越え区を代表する催しに発展しました。ボーイスカウトとの共催事業では、山口県で実施する日本ジャンボリーへの派遣費を支援したほか、区が主催する様々な事業においてもボーイスカウトの持つ技能を発揮できるように連携を図りました。</p>				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>青少年の学校・地域におけるボランティア活動などが、豊かな人間性、社会性を養うために必要であるとの認識が高まっています。一方で、中高校生の生活環境の変化に伴い、情報提供の方法や育成メニューが変化しています。</p>
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>地域のつながりが希薄化する中、地域の育成団体が実施する事業により、地域の連帯を強めることが求めています。参加者に対する事業コストが増加していることで、団体の運営が厳しくなっています。また、部活動や習い事などで時間的な余裕が少ない中高校生を対象とする取組みにおいては、参加が得られにくい状況になっています。</p>
	今後の予測	<p>青少年期において地域社会と接する機会が少ないことによって、社会的自立ができない成人を生まないためにも、地域・学校・行政が連携として、地域の青少年が積極的に参加できるように、中高校生を対象とした青少年育成団体の事業等の内容を工夫して実施していきます。</p>
評価と課題	<p>地域の青少年育成の取組みは、大人同士、子ども同士の交流が希薄になっている現在において、重要な役割を果たしています。近い将来地域の中心的な人材となる中高校生の意識を探りながら、その意義を感じ、参加したくなるような事業に取り組んでいけるように、各育成団体の取組みを支援するとともに、青少年に対する情報発信に努めて行く必要があります。</p>	

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し <input type="radio"/> 実施主体の見直し <input type="radio"/> 対象の見直し
	<p>青少年の意識を探り、積極的に参加する取組みを展開していく中で、情報の伝達が不十分になっている現状を改善するため、青少年へのアンケート実施等による効果的方法の検討を行い、ホームページの充実等ウェブを活用した情報発信をするなど、各事業の対象者に情報が届く仕組みを構築していきます。</p>		



## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 241

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		成人祝賀のつどいの実施	1	日	7,404
		青少年情報誌「セドル」の作成	6,000	部	2,164
		青少年実態調査	1	回	1,045
		ユースプロジェクトすぎなみの運営	21	回	436
		その他(自己肯定感醸成事業、キッズホームページの改修経費)	1,061		
	(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	成人祝賀のつどいでは、会場となる杉並公会堂全館を使用し、区立中学校区による招待地区割り、区立中学校の恩師の祝賀メッセージ集の配布、後輩たちからのダンスパフォーマンス、地域の商店会による新成人歓迎プランなど、対象となる新成人が参加して記念となるプログラムで開催し、高い評価を得ることができました。5年ごとに実施する青少年実態調査では、青少年の生活実態を探るだけでなく、それぞれの世代が描く将来像や現代の青少年のニーズを探る設問項目にするなど、今後の青少年施策に活かせる内容にしました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	内容
		就職氷河期の影響や非正規労働者の増大など、雇用環境が大きく変化することに伴い、若者は将来に対して大きな不安を抱いています。若者の就労環境の変化は、就労意欲の低下につながり、将来の目標を持たずに大学に行くことだけを目標にする若者が多くなっています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	若者の就労意欲の低下は、自立や社会参加の遅れを招き、ニートやひきこもりにもつながっていく恐れがあります。成人すると同時に一社会人として自立していけるように、就学期のうちから、将来の目標を持てるような取組みの展開が求められています。
	今後の予測	地域社会においては、現在の若者の将来を憂い、中高校生に対し地域の事業への参加を促し、地域社会への関心を持ってもらうために取り組む傾向が強くなっています。中高校生が積極的に参加しやすい取組みが増えて行くことで、地域社会においては、若者のエネルギーが活用され、徐々に活性化が図られていきます。
	評価と課題	将来の地域の担い手となる中高校生のエネルギーは、今後の地域の活性化を図る上で重要な財産です。そのため、中高校生自らが、地域における自分たちの立場を意識し、活躍していけるような機会と場を提供し、中高校生の力を十分に発揮できる取組にしていく必要があります。また、中高校生世代を終え、さらに自立を求められる青年層が、生産世代として就労意識を養っていけるような取組みを展開していきます。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充	● 現状維持	○ 縮 小	○ その他
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
	ユースプロジェクトすぎなみにおいては、地域や区における課題を投げかけ、その解消に向けた議論や検討をし、中高校生としての考えを区へ届けられるしくみを創ることで、中高校生自身が社会参画することの意義を見出し、やりがいを感じるような内容に転換していきます。また、地域情報誌の制作においては、地域情報を収集する側と情報提供を受ける側の需要と供給のバランスが向上するように、紙媒体からウェブによる情報発信の形態に転換します。					





平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 269

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		パートタイマー報酬	117	人	220,706
		臨時職員賃金	914	人	35,020
		運営事務費	43	施設	24,202
		保険料	53	施設	4,868
		その他( 消耗品 ほか )			
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	児童館や学童クラブの運営に必要なパートタイマー及び臨時職員の安定した確保に努めるとともに、職員の実技研修や階層別研修を実施し、児童館・学童クラブ運営や障害児対応等に係わる職員の資質の向上に努めました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>○児童館は昭和40年代から設置され、現在では児童青少年センターを含め計42館設置され、地域の子育て拠点としての様々な事業を展開しています。</p> <p>○近年では児童館での乳幼児親子利用の増加や、学童クラブの登録児童数が大幅に伸びるなど利用状況が変化しています。</p> <p>○こうしたニーズ等の変化を踏まえつつ、0歳から18歳までの児童を対象とした、全ての機能・サービスを児童館という限られたスペースの中で実施していくのは困難となっています。</p>
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>○児童館は、小学生の安全な居場所としての機能以外にも、乳幼児期から中高生期までの成長支援の場としての機能も担っており、乳幼児利用や、中高生の居場所についての幅広い意見や期待が寄せられています。</p> <p>○学童クラブでは、利用時間の拡大や障害児の受入等に関する要望・意見のほか、行き帰りも安心できる小学生の安全な居場所としての機能を求める声も多く寄せられています。</p>
	今後の予測	<p>○女性の社会進出による共働きの増加や、就労形態の多様化等を背景に、学童クラブの需要は今後も増加していくものと予想されます。また、行き帰りの安全面等の観点から、学校内への設置を求める声も、増えると予想されます。</p> <p>○乳幼児親子が身近な地域で気軽に集い、交流や情報交換等を行うことができる場と機会の確保や、中高生の居場所機能等、子どもたちの発達段階に応じた多様なサービスの充実が求められます。</p>
評価と課題	<p>児童館や学童クラブに必要な人材の確保や、適切な人員配置するとともに、職員研修等で児童館運営・学童クラブ事業の質の維持・向上に努めました。今後も乳幼児から中高生までの幅広い層の健全育成や、学童クラブの需要に則した対応をしていくために、人材の安定的な確保と研修等による人材育成体制の強化を図ります。児童館の利用実績やニーズの変化等を踏まえ、児童館という施設に捉われず、これまで児童館が担ってきた機能・サービスを充実・発展していく必要があります。</p>	

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し <input type="radio"/> 実施主体の見直し <input type="radio"/> 対象の見直し			
	<p>○児童の安心・安全な生活の場を提供するため、施設の利用実態に応じた職員配置やローテーションの工夫など、効率的な運営を図りながら、職員の得意分野や能力を活かした事業の実施など、人員の効果的な活用を進めるとともに、研修や各施設への巡回相談等による職員の質の更なる維持・向上に努めます。</p> <p>○これまで児童館が果たしてきた機能・サービスを、身近な小学校や新たな地域子育て支援拠点として整備する、(仮称)子どもセンター等で継承し、充実・発展する取組を段階的に進めていきます。</p>					

# 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		児童クラブ事業			款	4	項	2	目	1	事業	34	整理番号	270		
担当部課名		保健福祉部児童青少年課			係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	271			
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実			予算事業区分			既定事業								
事務事業の概要	事業開始		昭和	▼	39	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)				
	対象	親が共働きなどで留守家庭となる区内在住・在学の小学一年生から四年生までの児童及び六年生までの特別支援児童			内部管理		施設維持管理		根拠法令等	(1) 杉並区児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則 (2) 杉並区児童クラブ事業運営要綱						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)								活動指標名(式)							
	○子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を發揮し、健やかに成長するよう支援する。 児童クラブを利用している保護者が安心して楽しく子育てができるよう支援する。								(1) 入会児童数 (2) 入会障害児童数							
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)								成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標								
○共働き等により保護者が留守となる家庭の児童に対して、一人ひとりが尊重され、安心して安全に過ごせる居場所を児童クラブで提供する。								成果指標名(1)		待機児童数(各年度4月1日)						
								算定式・指標の説明等								
								成果指標名(2)								
								算定式・指標の説明等								
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)	1	人	3,178	3,414	3,207	3,432	3,331	3,618	97.1						
	活動指標(2)	2	人	119	140	110	144	122	147	84.7						
	成果指標(1)	3	人	52	0	44	0	70	0							
	成果指標(2)	4														
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	179,457	253,263	234,286	259,944	252,801	293,003	25年度予算執行率(%)		97.3				
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費	7	千円	147,805	219,628	205,545	228,530	223,083	259,846							
	職員数	常勤職員数	8	人	78.08	74.06	75.40	72.56	80.60	76.20						
		再任用職員数	9	人	10.00	0.00	2.32	2.31	1.00	1.00						
		非常勤職員数	10	人		10.00	8.00	8.00	2.00	2.00						
	人件費	(内)常勤職員分	11	千円	694,912	644,322	655,980	626,193	695,578	657,606						
		(内)再任用職員分	12	千円	30,800	0	9,118	8,917	3,860	3,860						
		(内)非常勤職員分	13	千円		27,500	22,000	22,240	5,560	5,560						
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	905,169	925,085	921,384	917,294	957,799	960,029							
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円	284,823	270,968	287,304	267,277	287,541	265,348							
	財源	受益者負担分	16	千円	94,422	99,354	95,003	101,775	100,370	110,230						
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18	千円	7,094	7,056	9,679	6,241	6,538	6,593						
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	101,516	106,410	104,682	108,016	106,908	116,823							
差引:一般財源(14-20)	21	千円	803,653	818,675	816,702	809,278	850,891	843,206								
受益者負担比率(16÷14)	22	%	10.4	10.7	10.3	11.1	10.5	11.5								

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 270

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		学童クラブ委託	10	所	217,663
		民間学童クラブ運営費助成	2	所	14,913
		おやつ代助成	748	人	14,112
		その他( 事務費等 )			6,113

(2)事業実績  
(協働、行革の取組があれば記入)

学童クラブの入会希望者は年々増加しており、平成25年度当初には70名の待機児童が発生しました。そのため、児童館の改修等により、緊急対応が必要な学童クラブにおける定員枠の見直しと、高井戸第二小学校改築に合わせた高二学童クラブの新設整備に取組みました。高二学童クラブは運営業務委託することとし、平成26年4月からの委託開始に向けた準備や、民間学童クラブの運営支援にも、引き続き取組みました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	児童の人口は、近年横ばい傾向で推移しているにも関わらず、学童クラブ入会希望者数及び入会者数は増加傾向にあります。このため、第二学童クラブの設置、施設改修による定員増及び学童クラブ登録制を実施しました。入会希望者の多い一部の学童クラブでは、既存の施設を利用した学童クラブの実施が困難になりつつあります。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	児童の行き帰りの安全面から、学童クラブを学校内へ移転してほしいとの声や、利用時間の延長など、より安全・安心を求める声が多くなっています。また、障害児の受入等に関する要望も寄せられています。
	今後の予測	女性の社会進出による共働きの増加や、就労形態の多様化等を背景に、学童クラブの需要は今後も増加していくものと予想されます。また、行き帰りの安全面等の観点から、学校内への設置を求める声も、増えると予想されます。
評価と課題	児童館の改修等により、受入枠を見直しを行いました。また、高井戸第二小学校改築に合わせ高二学童クラブを新設しました。このことにより、平成26年度当初の学童クラブ入会児童数は昨年度と比べ約300名増となりましたが、待機児童数は49名で、21名の減とすることができました。学童クラブの整備にあたっては、学校内への設置を基本としながら、区立施設再編整備計画に則って着実に進めていきますが、今後は子ども子育て支援新制度の本格施行に伴う、学童クラブ対象児童の拡大や増加する需要にも対応していく必要があります。	

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input checked="" type="radio"/> 対象の見直し	
	学童クラブの整備については、学校内への設置を基本としつつ、区立施設再編整備計画に則り実施していきます。また、当面の学童クラブ需要対策として、需要増が顕著な地域を中心に、児童館施設の活用による受入枠の拡大を図っていきます。					





平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 271

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		児童青少年センター事業	521	回	4,080
		児童館中・高校生事業	359	回	1,302
		児童館事業	11,952	回	20,282
		その他( )			0

(2)事業実績(協働、行革の取組があれば記入)

○全児童館での館内外の活動を始め、地域団体と連携した事業や、高齢者・障害者との交流事業など多彩な活動を、利用者、ボランティア、関係団体等と協働で展開し、子どもの地域の居場所として、遊びを通じた成長を支援しました。  
○児童青少年センターでは、自主企画実現システムの充実とプランナー企画(利用者との協働事業)の導入によって事業を展開しました。また、ゆう杉を卒業したOB・OGの活用による子ども交流事業やピアサポート事業を展開し、よりよい中高生の居場所としての取組に努めました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	○児童館は昭和40年代から設置され、現在では児童青少年センターを含め計42館設置され、地域の子育て拠点としての様々な事業を展開しています。中でも児童青少年センターは全国に先駆け設置された、中高生向けの児童館として様々な事業を展開しています。また、中高生自らの企画事業も展開するとともに、施設利用者のOB、OGを活用した、他自治体との子ども交流事業等も実施しています。 ○近年では児童館での乳幼児親子利用の増加や、中高生の居場所についての機能が求められる等、利用状況が変化しています。 ○こうしたニーズ等の変化を踏まえつつ、0歳から18歳までの児童を対象とした、全ての機能・サービスを児童館という限られたスペースの中で実施していくのは困難となっています。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	○児童館は、小学生の安全な居場所としての機能以外にも、乳幼児期から中高生期までの成長支援の場としての機能も担っており、乳幼児利用や、中高生の居場所についての幅広い意見や期待が寄せられています。 ○また、児童青少年センターは、数少ない中高生向けの児童館として、中高生との身近な相談場所・居場所としての機能を提供し、高い評価を頂いていますが、中高生の居場所についての要望は増加しており、今後もこれらの機能の充実が求められています。
	今後の予測	○乳幼児親子が身近な地域で気軽に集い、交流や情報交換等を行うことができる場と機会の確保や、中高生の居場所機能等、子どもたちの発達段階に応じた多様なサービスの充実が求められます。
評価と課題	子どもの心身共に健やかな育成を支援し、地域子育て支援の拠点として区民等の参画を進め、子どもと子育てを支える地域づくりを醸成しました。また、児童青少年センターでの中高生の自主企画事業や、利用者との協働事業・OB・OGの活用を進めたことにより、より良い事業展開となっています。児童館の利用実態が変化している中で、今後も多様化する利用者のニーズを捉え、幅広い層の健全育成を図るためには、児童館という施設に捉われず、これまで児童館が担ってきた機能・サービスを充実・発展させていく必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充    ● 現状維持    ○ 縮 小    ○ その他			
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
○全ての児童への育成支援を実現していくため、的確な個別支援が可能となるよう、児童健全育成事業の実施方法等について、これまで児童館の果たしてきた役割、機能を発展・継承しながら再構築し、身近な小学校や新たな地域子育て支援拠点として整備する、(仮称)子どもセンター等で継承し、充実・発展する取組を段階的に進めていきます。 ○中高生の居場所事業についても、杉並区全域に中高生の活動の拠点がひろがっていくよう検討を始めます。また、その延長線上に青年層の活動場所を描きながら、将来的には多様な地域の力と協働し地域の中に中高生が活躍できる場所を増やしていきます。						



## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 272

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		ゆうキッズ事業	41	館	10,436
		地域子育てネットワーク事業	41	館	1,598
		児童館ボランティア運営	1,359	人	50
		母親クラブ活動費助成	13	団体	620
		その他( )			
(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	<p>○虐待防止子育て相談事業「コーチング講座」や、「タッチケア講座」を子ども家庭支援センターと連携して実施しました。</p> <p>○全児童館で生後間もない乳児親子向けプログラムを、関係機関や、主任児童委員、民生委員、地域ボランティア等の協力を得て実施し、保護者の不安感や負担感の軽減、子育て力の向上を支援しました。</p> <p>○子育てネットワーク事業として、まつり、もちつき、キャンプ、防災訓練等世代を超えた交流を実施するとともに、児童館での中・高校生と赤ちゃんのふれあい事業も実施しました。</p>				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>○平成11年子育てネットワーク事業開始。</p> <p>○平成13年10月ゆうキッズ事業開始。</p> <p>○平成20年高井戸児童館ゆうキッズ事業委託開始</p> <p>○平成23年ゆうキッズ再構築、児童虐待未然防止部内調整。</p> <p>○平成23年9月ゆうキッズスタート全館実施。</p>
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>○核家族化や地域の人間関係の希薄化の進行に伴い、子育てに不安や負担を抱える保護者が少なくない中で、乳児親子が集い、交流できる場を求める声が高まっています。</p>
	今後の予測	<p>○地域子育てネットワーク事業では、子育てを通じた人と人のつながり作りを進めています。児童虐待未然防止のため、関係機関等とのこれまで以上の連携・協力のもと、地域ぐるみの子育て支援を発信、調整、実施していくことが求められています。</p> <p>○乳幼児親子が参加するゆうキッズ事業は利用者が増加傾向にあり、乳幼児親子が身近な地域で集い、交流や情報交換等を行うことができる場と機会の確保の更なる充実が求められます。</p>
	評価と課題	<p>○地域子育てネットワーク事業では、子育てを通じた人と人のつながり作りを進めています。児童虐待未然防止のため、関係機関と連携のもと、地域ぐるみの子育て支援を推進していくことが求められています。</p> <p>○また、地域の子育て支援拠点としての活動や、乳幼児親子の身近な集いの場としての機能を充実するためには、0歳から18歳までの児童を対象とした児童館という限られたスペースの中では限界があります。児童館という施設に捉われず、これまで児童館が担ってきた機能・サービスを充実・発展させていく必要があります。</p>

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充      ● 現状維持      ○ 縮 小      ○ その他
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し      ● 実施主体の見直し      ○ 対象の見直し
	<p>○地域子育てネットワーク事業やゆうキッズ事業について、事業の進め方や内容を精査し、地域ぐるみでの子育て支援の体制づくりに努めていくため、子育て支援事業者や団体・自主グループとの協働を進める方向で、今後のあり方を検討・具体化していきます。</p> <p>○これまで児童館が果たしてきた機能・サービスを、身近な小学校や新たな地域子育て支援拠点として整備する、(仮称)子どもセンター等で継承し、充実・発展させる取組を段階的に進めていきます。</p>		





平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 273

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		杉並区・名寄市子ども交流会	2	回	4,648
		杉並区・東吾妻町子ども交流会	1	回	850
		その他( )			0

(2)事業実績  
(協働、行革の取組があれば記入)

○名寄市との交流会(7月名寄市編3泊4日、8月杉並編3泊4日を実施、25名)  
○東吾妻町との交流会(8月実施東吾妻へ2泊3日、25名)

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	○名寄市との交流は杉並区の中学生在北海道風連町を冬に訪ねる「しばれ体験」として始めました。平成5年には風連町の小学生を杉並区に受け入れ、平成8年から現在のような相互訪問となり、平成18年に風連町が名寄市との合併により現在の事業名になりました。昨年度は都内見学を実施し社会見学の要素も取り入れた事業を実施しています。 ○東吾妻町子ども交流会は平成2年吾妻町との交流事業として始まり、杉並・吾妻で相互訪問を行う形で実施していましたが平成12年から1年毎の交互の訪問方式になりました。 ○平成24年度から次世代育成基金活用事業としています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	定員を超える参加申し込みがあります。また、参加費を徴収しても良いので、毎年申込できるようにしてほしい等の意見も寄せられ、両交流会への高い人気伺えます。また、参加児童は「楽しかった」「友達が出来た」「来年も参加したい」「農業体験できてよかった」など好評価を頂いています。
	今後の予測	次世代育成基金基金活用事業としての認知度も高まってきおり、今後も定員を大幅に超える応募が予想されることから、参加人数の拡大や事業内容の更なる充実に向けた検討が必要となります。
評価と課題		同世代の子どもたちが生活を共にしたり、それぞれの自治体の文化や生活を体験することで、広く社会に関心を持って成長していくことの一助となっています。また、双方の自治体にとっても子ども同士の交流は、将来にわたっての自治体交流の布石として非常に意義深いものになっています。今後は、参加者にとって、更に意義ある交流事業となるようなプログラムの検討を進めていくほか、参加人数の拡大など、子どもたちが交流事業に参加する機会を増やしていく検討が必要となります。

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	子ども同士が生活を共にすることで、各々の都市の文化や生活を知るという意味で、自治体交流の一端を担うことの一助となっています。交流プログラムについては、参加者にとって、更に意義ある交流事業となるよう検討を進めていきます。また、今後、東吾妻交流会については現在の相互訪問の形式を見直していきます。					

## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		次世代育成基金の運営			款	4	項	2	目	1	事業	50	整理番号	282		
担当部課名		保健福祉部児童青少年課			係名	青少年係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	283			
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実			予算事業区分			既定事業								
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	24	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実行計画事業目標		5	施策	24	計画事業	1	<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)		
	対象		区内の小・中学生、寄附者			内部管理		根拠法令等		(1) 杉並区次世代育成基金条例 (2) 杉並区次世代育成基金連絡会議設置要綱						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○子どもたちの健やかな育成を支援するため、国内外の自然・文化・芸術の体験やスポーツ交流の機会を創出するための取り組みに基金を活用する。 ○基金の趣旨を多くの区民に伝え、理解・賛同を得て寄附を募り、地域社会全体で子どもの成長を支える気運を醸成する。			活動指標名(式)		(1) 基金活用事業件数 (2) 基金活用事業参加者募集(定員)数								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○区内の小・中学生を対象とした国内外の交流都市・自治体との交流事業や自然体験事業の実施に対し、子どもの参加に係る経費の2分の1を基金から充当する。 ○基金の趣旨を広く区民に周知し賛同を得て、寄附を募っていく。			成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 基金活用事業参加児童・生徒数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 寄附者件数 算定式・指標の説明等								
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)		1	件		4	4	5	5	6	100.0					
	活動指標(2)		2	人		137	147	152	148	165	97.4					
	成果指標(1)		3	人		137	143	152	148	165	97.4					
	成果指標(2)		4	件		100	35	150	221	1,000	147.3					
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	0	85,032	79,230	34,014	34,002	10,739	25年度予算執行率(%)		100.0			
	(内)投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項					
	(内)委託費		7	千円	0	10	0	10	6	10						
	職員数	常勤職員数		8	人	0.00	1.00	1.23	1.00	1.31	0.50					
		再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00					
		非常勤職員数		10	人		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	0	8,700	10,701	8,630	11,305	4,315					
		(内)再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0	3,860					
		(内)非常勤職員分		13	千円		0	0	0	0	0					
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	0	93,732	89,931	42,644	45,307	18,914						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円		23,433,000	22,482,750	8,528,800	9,061,400	3,152,333						
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0	0					
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0	0					
		都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0	0					
その他の補助金等		19	千円	0	0	4,628	5,347	30,642	10,229							
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	4,628	5,347	30,642	10,229							
差引:一般財源(14-20)		21	千円	0	93,732	85,303	37,297	14,665	8,685							
受益者負担比率(16÷14)		22	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 282

25年度の事業実施状況	内 容	規模	単位		事業費(千円)
(1)主な取組	基金の積立	1	回		33,504
	基金周知用リーフレット作成(25年度版)	34,000	部		401
	その他( 寄附者送付用封筒作成ほか )				97
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	新規事業としてウイロビー市への海外留学が加わり、名寄市や小笠原諸島での自然体験、台湾台北市・南相馬市との親善野球大会など、区・教育委員会主催の体験・交流事業への区内小中学生の参加を支援するために基金を活用し、多くの子どもたちが将来の夢や希望を見出すきっかけとなる様々な機会を創出しました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	基金への応援寄付金について、広報紙やホームページを活用した周知及び郵便振替用紙付きの募集チラシを活用した区関係団体の総会等で配布・PRしたことにより、区の他課における寄附募集の取り組みも含め、区民の基金への関心度がより一層高まりました。			
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	子どもたちにより多くの体験機会を提供するため、世界自然遺産の体験や国際理解を深める取り組みに対するニーズが高くなっています。一方、基金活用事業の内容や更なる周知を求める声が寄せられています。			
	今後の予測	多くの子どもたちに体験の機会を提供するため、2020年東京でのオリンピック・パラリンピック開催を踏まえた事業の実施等、事業規模や内容の拡充が必要となっており、基金の活用方法について、効率的・効果的な方法を検討していきます。また、基金の趣旨を広く区民等から賛同が得られるように、分かりやすいパンフレットの作成や寄附しやすい仕組みを構築し、地域社会全体で子どもたちの夢を応援する環境を整えていきます。			
評価と課題	基金を活用して各種の体験・交流事業を実施したことにより、健全育成を支援することができました。今後、基金の取組について一層の周知に努め、区全体で取り組むとともに、区民の一層の賛同・支援が得られる仕組みづくりと基金活用の充実を図ります。				

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	平成25年度から開始した郵便振替用紙付き寄附募集チラシを活用しながら、多くの区民の賛同・支援の輪が広がるよう全庁を挙げた周知、寄付の募集等に努めていきます。そうした取組や寄付の状況等を踏まえつつ、多くの子どもたちが、主体的、自主的に参加し、自然・文化・芸術・スポーツなど様々な分野の経験を通じて、将来の夢を抱き活躍できるよう、事業の拡充を検討・実施していきます。					

## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		児童青少年センター・児童館の維持管理②		款	4	項	2	目	2	事業	2	整理番号	292				
担当部課名		保健福祉部児童青少年課		係名	管理係		連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	289						
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分		既定事業											
事務事業の概要	事業開始		昭和	▼	41	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	<input type="checkbox"/> 計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)					
	対象		児童青少年センター・児童館・学童クラブ、18歳未満の児童及び保護者、センター及び児童館職員、地域住民の団体		内部管理		施設維持管理		1	根拠法令等		(1) 児童福祉法第35、45条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		適切な維持管理等により安全かつ快適に利用できる施設とする。		活動指標名(式)		(1) 年間延べ利用者数(センター及び児童館) (2) 開館日数(センター及び児童館)										
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○施設維持管理における契約事務、履行確認、支払事務 ○施設運営における事務用物品等経費の執行事務		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標										
				成果指標名(1)													
				算定式・指標の説明等													
				成果指標名(2)													
				算定式・指標の説明等													
区分		単位	23年度	24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)								
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画									
指標	活動指標(1)		1	人	1,375,024	1,400,000	1,397,301	1,400,000	1,406,605	1,400,000	100.5						
	活動指標(2)		2	日	13,768	13,917	13,804	13,917	13,434	13,917	96.5						
	成果指標(1)		3														
	成果指標(2)		4														
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	261,189	283,601	274,603	283,593	270,667	296,138	25年度予算執行率(%)		95.4				
	(内)投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費		7	千円	150,268	157,262	151,442	162,875	152,523	171,079							
	職員数	常勤職員数		8	人	25.12	24.40	24.15	23.20	24.40	23.00	○活動指標の利用者数はサンカード利用を含みます。					
		再任用職員数		9	人	4.70	0.00	0.70	0.70	0.00	0.00						
		非常勤職員数		10	人		4.70	3.60	3.60	1.00	1.00						
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	223,568	212,280	210,105	200,216	210,572	198,490						
		(内)再任用職員分		12	千円	14,476	0	2,751	2,702	0	0						
		(内)非常勤職員分		13	千円		12,925	9,900	10,008	2,780	2,780						
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	499,233	508,806	497,359	496,519	484,019	497,408							
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円	363	363	356	355	344	355							
	財源	受益者負担分		16	千円	5,196	4,985	4,685	4,986	5,853	5,035						
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0	0						
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0								
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	5,196	4,985	4,685	4,986	5,853	5,035								
差引:一般財源(14-20)		21	千円	494,037	503,821	492,674	491,533	478,166	492,373								
受益者負担比率(16÷14)		22	%	1.0	1.0	0.9	1.0	1.2	1.0								

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 292

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		施設保守管理委託	53	施設	143,416
		施設修繕費	53	施設	33,657
		光熱水費			76,877
		その他( 電話料・手数料・備品購入 ほか )			16,717
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	児童館・学童クラブを安全・快適に利用できるよう、施設・設備の適正な維持管理を図っています。施設保守管理契約及び備品類の計画的な購入等により、適切な維持管理に努めました。また、施設修繕にあたっては、大規模修繕や学童クラブ改築等の計画と重複しないよう、計画的な修繕を進めました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	0
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	0
	今後の予測	
評価と課題	施設の経年劣化による修繕や学童クラブ需要増への対応により、施設・設備の適正な維持管理に努めました。児童館は昭和40～50年代に建設したものが大多数のため、施設の老朽化が進み区の財政負担が大きくなることが予想されます。今後、区立施設再編・整備計画に則った児童館施設の再編を段階的に進めていきますが、それまでの間の児童館維持管理においては、修理の緊急度、優先度等を考慮しつつ、計画的な修理に努め、コストの平準化を図る必要があります。	

改善・見直しの方向 (中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
0						



## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		児童館の耐震改修		款	4	項	2	目	3	事業	9	整理番号	296		
担当部課名		保健福祉部児童青少年課		係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	293			
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分				投資事業							
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	24	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	計画事業	<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)				
	対象	堀ノ内東児童館及び学童クラブの児童、職員、施設利用者		内部管理		施設維持管理		根拠法令等	(1) 建築物の耐震改修の促進に関する法律第6条 (2) 杉並区耐震改修促進計画に基づく区立施設の耐震化整備プログラム						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		児童館の耐震改修により、児童館及び学童クラブの児童、職員、施設利用の安全を確保するとともに、計画修繕により施設の適切な維持管理を行う。		活動指標名(式)		(1) 耐震改修を必要とする児童館 (2) 計画修繕を実施する児童館								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○耐震改修が必要な児童館について、耐震工事を行う。 ○計画修繕により施設の適切な維持管理を行う。		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標								
				成果指標名(1)											
				算定式・指標の説明等											
				成果指標名(2)											
				算定式・指標の説明等											
区分		単位	23年度	24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)						
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画							
指標	活動指標(1)	1	施設	1	1	0	1	0							
	活動指標(2)	2					1	0							
	成果指標(1)	3													
	成果指標(2)	4													
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	0	2,228	2,227	7,494	7,492	0	25年度予算執行率(%)		100.0			
	(内)投資的経費等	6	千円	0	2,228	2,227	7,494	7,492		特記事項 ○対象児童館は都営住宅、区立保育園との合築建物のため、工事主体は東京都となります。 ○耐震工事と併せて建物の保全工事を実施しています。					
	(内)委託費	7	千円	0	0	0	0	0	0						
	職員数	常勤職員数	8	人	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10				0.00		
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				0.00		
		非常勤職員数	10	人		0.00	0.00	0.00	0.00				0.00		
	人件費	(内)常勤職員分	11	千円	0	0	870	0	863				0		
		(内)再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0				0		
		(内)非常勤職員分	13	千円		0	0	0	0				0		
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	0	2,228	3,097	7,494	8,355	0						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円		0	870,000		863,000							
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0				0		
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0				0		
		都からの補助金等	18	千円	0	0	0	0	0				0		
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0						
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0						
差引:一般財源(14-20)		21	千円	0	2,228	3,097	7,494	8,355	0						
受益者負担比率(16÷14)	22	%		0.0	0.0	0.0	0.0								

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 296

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		耐震改修及び計画修繕負担金	1	施設	7,492
		その他( )			0

(2) 事業実績  
(協働、行革の取組があれば記入)

都営住宅、区立保育園との合築建物である、堀ノ内東児童館について、工事主体となる東京都と耐震工事に係る協定を締結し、耐震工事及び外壁の計画修繕を実施しました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	防災意識の高まりによる、児童更生施設等の耐震化促進は、重要な課題となっています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	平成23年3月11日の東日本大震災の影響により、児童更生施設等の耐震化促進を求める要望が増えました。
	今後の予測	平成25年度中工事に堀ノ内東児童館の耐震改修工事は完了しました。
評価と課題		堀ノ内東児童館の耐震改修工事によって、児童館の耐震化は完了しました。

改善・見直しの方向 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input checked="" type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
	II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	堀ノ内東児童館の耐震改修工事によって、児童館の耐震化は終了しました。				
改善・見直しの方向 (中長期)					

# 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		(仮称)宮前第二学童クラブの整備 款 4 項 2 目 3 事業 26						整理番号	301						
担当部課名		保健福祉部児童青少年課		係名	管理係		連絡先電話番号	4402	昨年度整理番号	300					
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実				予算事業区分		投資事業							
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	24	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実行計画事業目標	5	施策	24	計画事業	2	<input checked="" type="checkbox"/>	主要事業(経営計画書掲載事業)
	対象		施設管理		内部管理		施設維持管理		根拠法令等 (1) 児童福祉法第35・45条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則						
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○入会需要の増加に対応するため、高井戸第二小学校の校舎改築工事に併せ、校舎内に施設を整備する。						活動指標名(式)						
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○(仮称)宮前第二学童クラブ(高二学童クラブ)のスペースを高井戸第二小学校校舎に確保し、改築工事を進める。						成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) 学童クラブ新設による受入枠の増 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 算定式・指標の説明等						
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画							
指標	活動指標(1)		1	施設		0.2	0.2	0.8	0.8		100.0				
	活動指標(2)		2												
	成果指標(1)		3	人				60	60	0	100.0				
	成果指標(2)		4												
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	0	11,460	10,928	37,979	37,717		25年度予算執行率(%) 99.3				
	(内)投資的経費等		6	千円	0	11,460	10,928	37,979	37,717		特記事項				
	(内)委託費		7	千円	0	11,460	10,928	34,979	34,978	0					
	職員数	常勤職員数		8	人	0.00	0.10	0.10	0.20	0.10		0.00			
		再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00			
		非常勤職員数		10	人		0.00	0.00	0.00	0.00		0.00			
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	0	870	870	1,726	863		0			
		(内)再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0		0			
		(内)非常勤職員分		13	千円		0	0	0	0		0			
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	0	12,330	11,798	39,705	38,580	0					
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円		4,350,000	4,350,000	2,157,500	1,078,750						
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0					
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0					
都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	10,939							
その他の補助金等		19	千円	0	10,000	6,000	30,000	21,000							
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	10,000	6,000	30,000	31,939	0						
差引:一般財源(14-20)		21	千円	0	2,330	5,798	9,705	6,641	0						
受益者負担比率(16÷14)		22	%		0.0	0.0	0.0	0.0							

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 301

25年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1)主な取組	(仮称)宮前第二学童クラブ(高二学童クラブ)の整備	1	所		37,717
	その他( )				0
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	高井戸第二小学校の改築に合わせ、新たに高二学童クラブとして小学校内に学童クラブを整備し、60人の受入枠の増を図りました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学童クラブの需要は、この10年間に急増し、学童クラブの対象となる児童数そのものは、ほぼ横ばい状況にある中、学童クラブの登録児童数は約1.5倍(平成15年=2,200人→平成25年=3,331人)となっています。			
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	近年の学童クラブ需要増や、児童を脅かす事件の多発などを背景に、安全・安心な放課後の居場所としての学童クラブづくりが求められており、宮前学童クラブにおいても、高井戸第二小学校の改築に合わせ、第二学童クラブの新設を求める声が保護者から寄せられていました。			
	今後の予測	母親の就労ニーズの高まりや、未就学児の保育需要に見られるように、学童クラブ需要は今後も増加するものと予想されますが、高井戸第二小学校地域については、既存の宮前学童クラブに加え、高二学童クラブを新設したことで、当該地区の今後の需要増に対応できると見込んでいます。			
評価と課題	小学校内に学童クラブを開設することで、より安心して利用できる学童クラブにするとともに、高井戸第二小学校地域における学童クラブ需要に対応した定員増を図ることができました。				

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input checked="" type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
平成26年4月に開設し、事業終了となります。						

# 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		(仮称)和泉第二学童クラブの整備 款 4 項 2 目 3 事業 28						整理番号	302		
担当部課名		保健福祉部児童青少年課			係名		連絡先 電話番号	昨年度 整理番号			
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実				予算事業区分		投資事業			
事務事業の概要	事業開始	平成	▼	25	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実行計画事業目標	5 施策	24 計画事業	2	<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)	
	対象	施設管理		内部管理		根拠(1) 児童福祉法第35・45条					
				施設維持管理		等 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○入会需要の増加に対応するため、(仮称)杉並和泉学園(小中一貫教育校)の校舎改築・改修工事に併せ、校舎内に施設を整備する。					活動指標名(式)				
						(1) 学童クラブ整備					
						(2)					
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	○(仮称)和泉第二学童クラブのスペースを(仮称)杉並和泉学園校舎に確保し、改築・改修工事を進める。					成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標					
						成果指標名(1) 学童クラブ移転整備による定員の増					
						算定式・指標の説明等					
						成果指標名(2)					
						算定式・指標の説明等					
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)	
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画			
指標	活動指標(1)	1	施設			0.2	0.2	0.8	100.0		
	活動指標(2)	2									
	成果指標(1)	3	人			5	0	5	0.0		
	成果指標(2)	4									
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円			9,012	9,011	30,345	25年度予算執行率(%)	100.0	
	(内)投資的経費等	6	千円			9,012	9,011	29,145	特記事項		
	(内)委託費	7	千円			9,012	9,011	29,145			
	職員数	常勤職員数	8	人				0.10	0.10		
		再任用職員数	9	人				0.00	0.00		
		非常勤職員数	10	人				0.00	0.00		
	人件費	(内)常勤職員分	11	千円	0	0	0	863	863		
		(内)再任用職員分	12	千円		0	0	0	0		
		(内)非常勤職員分	13	千円		0	0	0	0		
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	0	0	0	9,012	9,874	31,208		
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円				0	4,315,000	2,578,750		
	財源	受益者負担分	16	千円							
		国からの補助金等	17	千円							
都からの補助金等		18	千円					3,323	11,012		
その他の補助金等		19	千円					11,000	5,000	0	
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	11,000	8,323	11,012		
差引:一般財源(14-20)	21	千円	0	0	0	▲ 1,988	1,551	20,196			
受益者負担比率(16÷14)	22	%				0.0	0.0	0.0			



平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 302

25年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1) 主な取組	(仮称)和泉第二学童クラブの整備	1	所		9,011
	その他( )				0
(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	(仮称)杉並和泉学園の校舎改築・改修に合わせ、校舎内への学童クラブ整備を進めました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学童クラブの需要は、この10年間に急増し、学童クラブの対象となる児童数そのものは、ほぼ横ばい状況にある中、学童クラブの登録児童数は約1.5倍(平成15年=2,200人→平成25年=3,331人)となっています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	近年の学童クラブ需要増や、児童を脅かす事件の多発などを背景に、安全・安心な放課後の居場所としての学童クラブづくりが求められており、(仮称)杉並和泉学園においても、対象校である新泉小学校内にある学童クラブの移設が求められていました。
	今後の予測	母親の就労ニーズの高まりや、未就学児の保育需要に見られるように、学童クラブ需要は今後も増えるものと予想され、(仮称)和泉第二学童クラブについては、和泉学童クラブを合わせて、150人程度の需要があると見込んでおります。
評価と課題	(仮称)杉並和泉学園の校舎改築・改修に合わせ、学校内に学童クラブを整備し(平成27年4月開所予定)、(仮称)杉並和泉学園区域における学童クラブの定員増を図ることで、育成環境の整備と、今後の需要に対応していきます。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
平成27年4月開所に向け、引き続き整備を行っていきます。						

## 平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		児童クラブの整備			款	4	項	2	目	3	事業	37	整理番号	305		
担当部課名		保健福祉部児童青少年課			係名	管理係			連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	301		
上位施策No・施策名		24 子ども・青少年の育成支援の充実			予算事業区分			既定事業								
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	24	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)				
	対象		施設管理			内部管理		施設維持管理		根拠法令等		(1) 児童福祉法第35・45条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○児童クラブの需要増に的確に対応するため、児童館の一部諸室を育成室等へ転用し、児童クラブ受入枠拡大を図る。			活動指標名(式)		(1) 用地取得児童クラブ数 (2) 改修工事实施児童館数								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○児童館の一部諸室を育成室等へ転用する改修工事を行う。			成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標								
		成果指標名(1)														
		算定式・指標の説明等														
		成果指標名(2)														
		算定式・指標の説明等														
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度		計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)		1	施設		1	1	0								
	活動指標(2)		2	施設					3	6						
	成果指標(1)		3													
	成果指標(2)		4													
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	0	230,004	230,003	33,000	32,809	73,188	25年度予算執行率(%)		99.4			
	(内)投資的経費等		6	千円	0	230,004	230,003	33,000	32,809	73,188	特記事項 ○平成24年度は、本事業で桃五学童クラブの用地取得を行いました。					
	(内)委託費		7	千円	0	0	0	33,000	32,809	73,188						
	職員数	常勤職員数		8	人	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10						0.10
		再任用職員数		9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						0.00
		非常勤職員数		10	人		0.00	0.00	0.00	0.00						0.00
	人件費	(内)常勤職員分		11	千円	0	0	870	0	863						863
		(内)再任用職員分		12	千円	0	0	0	0	0						0
		(内)非常勤職員分		13	千円		0	0	0	0						0
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	0	230,004	230,873	33,000	33,672	74,051						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円		0	870,000									
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0								
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0								
		都からの補助金等		18	千円	0	0	0								
その他の補助金等		19	千円	0	0	0										
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0							
差引:一般財源(14-20)		21	千円	0	230,004	230,873	33,000	33,672	74,051							
受益者負担比率(16÷14)		22	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 305

25年度の事業実施状況	内容	規模	単位		事業費(千円)
			単	位	
(1)主な取組	改修工事(松ノ木、浜田山、方南)	3	施設		32,809
	その他( )				0
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	学童クラブの需要増に対応するため、児童館の一部諸室を改修して育成室等へ転用し、受入枠の拡大を図りました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学童クラブの対象となる児童の人口は、近年横ばい傾向で推移しているにもかかわらず、学童クラブ入会希望者数及び入会者数は増加傾向にあります。このため、第二学童クラブの設置、施設改修による定員増及び学童クラブ登録制を実施しました。入会希望者の多い一部の学童クラブでは、既存の施設を利用した学童クラブの実施が困難になりつつあります。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	学童クラブでは、利用時間の拡大や障害児の受入等に関する要望・意見のほか、行き帰りも安心できる小学生の安全な居場所としての機能を求める声も多く寄せられています。
	今後の予測	近年の保育需要の急増を受け、就学前の教育・保育から学齢期の放課後対策までの、切れ目のないサービスの提供が求められています。また、女性の社会進出による共働きの増加や、就労形態の多様化等を背景に、学童クラブの需要は今後も増加していくものと予想されます。また、行き帰りの安全面等の観点から、学校内への設置を求める声も増えると思われれます。
評価と課題	児童館の改修等により、受入枠を見直しを行いました。また、高井戸第二小学校改築に合わせ高二学童クラブを新設しました。このことにより、平成26年度当初の学童クラブ入会児童数は昨年度と比べ約300名増となりましたが、待機児童数は49名で、21名の減とすることができました。学童クラブの整備にあたっては、学校内への設置を基本としながら、区立施設再編整備計画に則って着実に進めていきますが、今後は子ども子育て支援新制度の本格施行に伴う、学童クラブ対象児童の拡大や増加する需要にも対応していく必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	今後も、受入枠の拡大による需要増への対応を図ります。平成26年度には、桃井、井草、松庵、永福南、高井戸、宮前北の5施設について改修工事を進めます。また、区立学童クラブの整備については、学校内への設置を基本としながら、区立施設再編整備計画に則って実施するとともに、中・長期的な視点での児童館・学童クラブのあり方を検討・具体化していきます。					



平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 327

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		未成年喫煙防止普及啓発(ポスター及び標語募集・カレンダー作成)	1,430	点	443
		飲酒・喫煙・薬物乱用防止対策(普及啓発用品・教材配布)	4,467	枚	304
		その他( )			0

(2)事業実績(協働、行革の取組があれば記入)

○区立小学校を対象に、未成年者の喫煙防止の標語・ポスター募集を行い、優秀な作品を表彰し、翌年度のカレンダー(ポスター)とし、区内全小中学校に配布しました。  
 ○区立小学校の希望する学校を対象に、喫煙防止教材を配布しました。  
 ○学校教育において、喫煙防止教育が推進され、特に標語の募集が増えました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	○未成年者への飲酒・喫煙対策については、対面販売で年齢を確認するなど業界の自主規制がこの数年大きく進んできています。また、未成年者のタバコの購入を抑制するため、平成20年度から成人識別カードが導入されました。また、平成22年にはたばこの値上げが行われています。 ○平成25年に「杉並区がん対策推進計画」が策定され、その取組課題の1つに「たばこ対策の強化」が掲げられました。このなかでも、未成年者の喫煙防止対策の充実が求められています。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	○平成25年度に実施した区内中学1、3年生を対象とした飲酒・喫煙・薬物に関する意識調査の結果から、喫煙経験率は平成23年度に比較すると中学1年生で若干増加しています。(2.4%→2.9%)。今後、喫煙率が増加しないよう、学校および家庭での喫煙の有害性についての教育が必要になります。 ○また、近年薬物が容易に手に入る状況にあるため、学校・地域保健等と連携を図りながら普及啓発を進める必要があります。
	今後の予測	○25年度に区立中学1、3年生を対象に意識調査を実施し、中1で喫煙経験率が若干増加しているため、喫煙率低下に向けて学校と連携し、喫煙防止教育の充実に努めていく必要があります。関心のある学校にリーフレットを配布していた配布方法から、対象年齢を絞って全員に配布する方法に変更して、効果的な普及啓発に変更していきます。
評価と課題	○未成年がたばこを入手することを困難にするための社会的対策があるものの、その効果が薄くなっていると言われ、喫煙率0にはならないのが現状です。未成年喫煙防止のためには学校での教育のほかにも、社会的な対策整備や身近な大人の卒煙対策など、多岐にわたる取組が必要となります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	○これまで主に喫煙を中心に普及啓発に取り組んできましたが、未成年の飲酒に関しても同様に普及啓発に力を入れていく必要があります。					